

佐分利川水系河川整備計画(原案)について ご意見とコメント

住民説明会や住民アンケート調査の中で、佐分利川、大津呂川の川づくりに関するご意見を伺ったところ、たくさんのご意見をいただきました。その主なものについては「福井県嶺南地域流域検討会ニュース(佐分利川住民説明会編)」により、ご紹介していますが、その他のご意見に対して、河川管理者からの回答をお知らせいたします。

【治水について】

大雨にも安心できる、1 ランク上の長期的な計画が必要。

佐分利川の上流にも生活貯水池が必要ではないか。

一昨年の台風 23 号の洪水規模は何年に一度なのか。

(河川管理者より)

目標については、主に治水、利水面について、整備計画の目標よりも、より高い目標設定を望まれる意見が多くありました。

県では、財政状況の厳しい中、河川整備計画の対象期間である 20～30 年間に、県内の河川を一定のレベルまで整備することを目指して、県内の各河川について河川整備計画の策定を順次進めています。

今回、佐分利川、大津呂川で設定している目標はこういった県の河川整備に対する方針から、県内の各河川の整備状況とのバランスを考慮して設定しています。

また近年、地球温暖化の進行により大雨が増加する傾向にあり、このことを懸念されるご意見もいただいています。佐分利川水系では、今回の河川整備計画を策定するに当たり、近年の水文データも取り入れて治水計画の妥当性を検討しています。今後、自然環境や社会環境の変化等により計画の見直しが必要となった場合には、適宜計画の変更を行っていく予定です。

なお、一昨年の台風 23 号では、大飯観測所(気象庁)で 176mm/日を記録しており、その規模は 1 日の雨量で考えると、10 年に 1 度くらい起こる洪水の規模となっています。

【利水について】

大津呂川では、休耕田の増加や、補給水ポンプも設置したことにより、近年は極端な水不足にはなっていない。

(河川管理者より)

大飯町では、近年様々な渇水対策が実施され、大飯町の水稲の収穫量は安定しておりますが、現在、大津呂川では、夏場において継続的に、水が枯れており、魚や生物が生息したりするための、河川としての正常な機能を維持するための水量も流れていない状態です。また、渇水時には安定した水の利用が困難になると考えられます。このため、大津呂川の水量を回復させるには、生活貯水池により水を確保することが必要と考えます。

【環境について】

かなり土砂がたまっており、水の流れが悪くなっている。

草刈の時に、川の際まで刈らずに野鳥や魚のために少しは草を残すよう指導してほしい。

高齢者も強制される感じがするので、草刈はボランティアで対応してほしい。

佐分利川を、昔のように子供が入って遊べる自然の川にしてほしい。

魚が生物がすみやすい川にしてほしい。

(河川管理者より)

維持管理については、主に佐分利川について、河口部や川幅の広い部分、堰などで、土砂の堆積について多くのご意見をいただきました。これらの箇所については今後も特に注意して維持管理を行ってまいります。また、この際、環境面にも配慮することに努めます。

また、現在、地域住民の方に協力をしていただき、草刈等を実施していますが、今後も河川管理者と地域との共同での維持管理を行っていきたいと考えています。皆様のご協力をお願いいたします。

【大津呂生活貯水池事業について】

大津呂ダムを「大津呂生活貯水池」としているが、その名称の意味は何か？

(河川管理者より)

生活貯水池とは、山間部や半島部等の地域において、不安定な水利用状況の改善と地域の安全・活性化に貢献するための小規模なダムをいいます。その機能・目的等は通常のダムと同じです。ちなみに、福井県内では、平成 14 年に永平寺川で完成した永平寺ダム（ダム完成後に、現在の名称に改名）も生活貯水池です。

本当にダム建設は実施されるのか。

一日も早く生活貯水池を完成させてほしい。

(河川管理者より)

大津呂生活貯水池（大津呂ダム）は、現在早期本体着工を目指し、ダムの実施設計および関係機関との協議等を進めている状況です。ちなみに、平成 14 年に完成した永平寺ダムは、同じ生活貯水池ではありますが、ダム着工後は仮排水工事を含め 5 年で竣工しております。

ダムの工事に伴って、用水が濁っている。

コンクリートのアクによる水質への影響が懸念される。

(河川管理者より)

水質については、大津呂川の現在までの水質調査結果、一部の調査箇所では水の濁りが発生しています。ダムに関連した工事箇所等が原因となっている可能性も否定できません。今後においては、工事中における水質調査を継続して、河川水の使用に支障をきたさないように、状況に応じて対策を講じます。

また、ダム本体の大規模工事では、大量のコンクリートを打設することとなり、大量の排水が発生します。工事期間中は水質処理の施設を設置し、排水を環境に影響のない水質に調整してから、河川に戻します。

なお、下流大津呂川において水質等のモニタリングを実施し、適切な水質で排水が戻されているか確認を行います。

ダムは反対である。

水量の少ない大津呂川よりも佐分利本川にダムをつくるべき。

大津呂川の堤防を嵩上げの方が安上がりである。

(河川管理者より)

大津呂川は毎年夏場に継続的に水が枯れている状況であり、また、過去の洪水により度々被害が発生しています。このため、大津呂川に対して、夏場でも水が枯れないように、また、洪水でも被害が発生しな

いように、海水淡水化プラントも含めた対応案を比較検討しました。

その結果、川幅を広げる又は堤防を高くするという方法で洪水による被害を防ぐことと、水を確保することを別々に行うよりも、規模は大きくてもダムという 1 つの構造物で、その両方を行う方が、効果的・経済的であると判断しました。

さらに、ダムは、夏場に人口・資産の集中する佐分利川下流域にも水補給の効果をもたらす、大飯町の開発計画にも効果をもたらすことから、総合的に考えても、大津呂生活貯水池の建設は妥当であると考えています。

大津呂ダム建設による長井地区への影響等はないか。

(河川管理者より)

大津呂ダムの建設位置については、地質的な面についても国の審査を受けて、妥当性を確認しています。ダム建設地点に対し山田地区は、地層を横切る方向に位置しており、貯水池から山田地区までは約 1000m 程度離れていることから、水深 40m 程度の貯水池の水が、地層を横切り、なおかつ 1000m も移動して漏水する可能性は低いと考えています。

よって、ダムに貯水された水が長井地区に影響を与える可能性は低いと考えています。

【その他】

他の支川への対応はどうなっているのか。

(河川管理者より)

佐分利川水系では、佐分利川と大津呂川を県の定める法河川として管理しています。その他の支川については、大飯町が管理していますので、大飯町と連携を取りながら対応していきます。

大津呂川の両岸に管理用道路を設置すべき。

(河川管理者より)

法令により、堤防には河川の管理のための通路を設けることとされていますが、大津呂川のように、川幅が小さく、適度な間隔で進入路がある場合は、管理用道路の設置はこの限りではないとされています。よって、大津呂川については町道や堤防進入路を利用して必要な管理を行うことが可能と考えています。

住民の意見や県の回答は公開すべきだ。

地元の意見を聞きながら事業を進めてほしい。

(河川管理者より)

河川整備計画に関する「嶺南地域流域検討会」等での審議内容、配布資料等は、「福井県嶺南地域流域検討会」のHP (<http://info.pref.fukui.jp/kasen/reinan-index.htm>) で公開させていただいています。

また、今回の住民説明会と住民アンケート結果については、「福井県嶺南地域流域検討会ニュース 佐分利川住民説明会編」を発行し、関係機関でご覧いただけます。

今後、大津呂生活貯水池建設計画について、適切な時期に説明会を開催します。

以上